

ヒロシマを伝える意味

～被爆体験は世界のなにを変えるのか～

峠三吉『原爆詩集』（四國五郎装丁、一九五一年）



核兵器禁止条約は、批准国が50を超え、年内に発効する見込みです。そこに至るまでの70余年。ヒロシマ・ナガサキを体験した人としらない人の間に、架け橋が生れるにあたって、さまざまな市民の知られざる努力がありました。

困難をこえて、日本を起点に世界を動かすことができると信じています。そんな元気の出るお話をしたいと思います。

◇ 永田浩三さんプロフィール

1954年生。元 NHK プロデューサー。現在、武蔵大学社会学部教授。著書『ヒロシマを伝える』『ベン・シャーンを追いかけて』『NHKと政治権力』など。編共著『フェイクと憎悪』。表現の不自由展共同代表。言論の不自由展共同代表。市民や学生とともに、ヒバクシャや朝鮮人への差別問題を扱うドキュメンタリー作品や朗読劇に取り組む。被爆2世。



ながたこうそう

お話／永田浩三さん

日時: 2019年7月24日(水) 18:30-21:00 (開場18:00)

教室: 東京藝術大学 上野キャンパス 音楽学部 **5-109**

※入場無料、申込不要。藝大生と一般市民のための講座です。

お問い合わせ: kenpou.geidai@gmail.com (川嶋)

主催: 東京藝術大学音楽学部 楽理科／後援: 日本ペンクラブ
共催: 自由と平和のための東京藝術大学有志の会

